

都市対抗野球

マツゲン箕島敗退

延長十回に力尽きる

近畿2次予選

第95回都市対抗野球大会近畿地区2次予選(日本野球連盟近畿地区連盟、毎日新聞社主催)は2日、大阪市の

大阪シティ信用金庫スタジアムで第4代表決定トーナメント3回戦2試合があった。ニチダイ(京都府京田辺市)がマツゲン箕島(有田市)に延長十回タイブレークの末に4-2で

競り勝ち、大阪ガス(大阪市)はパナソニック(大阪府門真市)との大阪勢対決を6-3で制した。

【来住哲司、山口敬人、中田博維】

▽第4代表決定トーナメント3回戦

ニチダイ

0000000001013
0000000010124
マツゲン箕島

(延長十回、十回からタイブレーク)

レーク

(二) 浜田、家城、小倉、酒井、井上(マ) 奥田、山元、森山、藤田幸、三塁打、竹中(マ) 二塁打、富田、松本(マ)

ニチダイは九回に敵失と代打・西尾の安打で1死一、三塁とし柴崎が同点犠飛。十回は西元、城島の適時打などで3得点し逃げ切った。マツゲン箕島は八回に白滝の適時打で先制したが、再三の得点機を逃し、好投の奥田が最後に力尽きた。

好機を生かせず

マツゲン箕島・西川忠宏監督 好機を生かせなかったのがすべて。1、2点を取らなくてはいけない場面で取れなかった。相手はミスを得点につなげてきたが、ウチはできなかった。(予選が近畿全体で行われるようになった83回大会以降で大会2勝は初めて)成長は感じている。階段なので一段一段上がっていくことが大切。

勝てる投手に

○：悔しい敗戦のマツゲン箕島だったが、西川忠宏監督は「気合が入っていた。次につながる」と先発した奥田貴太をねぎらった。5月30日の大和高田クラブ(奈良県大和高田市)戦でチームは逆転サヨナラ勝ちしたが、慣れないリリーフで4失点。「新人ながらウチのエース。まさかの展開」と指揮官を心配させたが、この日は八回まで球威のあるストリートを軸に8奪三



【ニチダイ—マツゲン箕島】好投しながら延長十回途中で降板したマツゲン箕島の先発・奥田—大阪市の大阪シティ信用金庫スタジアムで

振、5安打に抑える力投。九回に失策を機に同点犠飛を許し、十回途中でマウンドを降りたものの、合格点の内容だった。「前の試合は野手の方に助けても

らった。今回はやってやろうという気持ちだった」と奥田。ただ勝利につなげられず「勝ちきれないのが自分の弱さ。勝てる投手を指す」と雪辱を誓った。